

魂のうた



松下昌義

私の力みが静かに消えて行く
透明に溶けて行き
無となる
時間と空間が消え去り
空が空のまま空となる
私はわたしとなり
愛の余韻が充満する
永遠なる命のたぎりよ

.....
肉体の悦楽ではない
精神の悦楽ではない
いかなる悦楽でもない
悦楽そのもの そのもの悦楽
わたしそのものが悦楽
わたしは愛
愛がわたし
わたしにこそ栄光あれ

天上より 光が頭上にきたる
深くながい呼吸とともに
安らぎとなつて 胸をとおり
全身にあたたかくみなぎる
透明なる炎が 私の存在を聖め
宇宙と同化させ
私を わたしに親しませる
われもなく ひとみなき
絶対の静寂に 愛の鼓動が響き
優しき言葉と化して宇宙に漲る
確かな現実がここにある
昨日がここにある
今日がここにある
明日がここにある
ここに初めがあり 終わりがあり
永遠があり 万物をここに見る
それは わたしの有り難き命の滾り

自らを沈め深淵に下りていく
暗黒をぬけきるとき
白光の空に出る
私は風となり
風は光とたわむれ
白光に溶ける
私はわたしとなる
言葉も無く音も無く景色も無く
ただ愛が無限に満ちる
それは時間を包む確かな現実
空間を包むたしかな現実
肉体を包む確かな現実
それは知識を支える確かな現実
感覚をつつむ確かな現実
そこより現成しそこで保たれ
そこで完成する
私はそこに立っている

肉体の境界が消え去り
宇宙意志と同化し無となる
命のたぎりに抱えられた無が
そのまま息づく
そのままが悦楽 そのままが平安
命のたぎりは愛と光。
愛と光が凝縮して万物と化す
愛と光は限り無き創造力
万物は形に於いて愛を交わし
光をみなぎらせ 清浄なる空間を生む。
岩よ 石よ 土よ山よ 川よ 花よ樹木よ
空飛ぶ鳥よ 地上に生きる動物たちよ
天空に瞬く星よ おまえたちは 愛と光
を素直に輝かし生死する。
人よ静まれ 魂を奢るな 肉体を汚すな
人の本性は 有り難き愛と光
人よ肉体を尊び 感謝して生きよ
人よ歓喜せよ 光と愛との根源者を畏敬
せよ。わたしは初め わたしは終わり。

私はなに者	わたしの識別
私はなに者	わたしである
私はなに者	わたしの念い
私はなに者	わたしの願い
私はなに者	わたしの希望
私はなに者	わたしの愛
私はなに者	わたしの輝き
私はなに者	わたしの像
私はなに者	わたしの力
私はなに者	わたしの意志
私はなに者	わたしの言葉
私はなに者	わたしの智慧

私はなに者	わたしの思慮
私はなに者	わたしの勇気
私はなに者	わたしの栄光
私はなに者	わたしでない
私はなに者	おまえは人間

生きているのではない
生かされている
生まれたのではない
生み出されたのである
息をしているのではない
息をさせていただいている
見ているのではない
見させて頂いている
聞いているのではない
聞かせていただいている
食べているのではない
食べさせて頂いている
働いているのではない
働かせていただいている
死ぬのではない
死なせて頂くのである
有り難き命のたぎりが
死んでも生きても生かして下さる

形は心 それ故形は形
心は形 それ故心は心
見えるものは見えないもの
それ故見えるもの
見えないものは見えるもの
それ故見えないもの
理想は現実 それ故理想
現実は理想 それ故現実
肉体は霊 それ故肉体は肉体
霊は肉体 それ故霊は霊
言葉は沈黙 それ故言葉は言葉
沈黙は言葉 それ故沈黙は沈黙
この世はあの世 それ故この世
あの世はこの世 それ故あの世
生は死 それ故生は生
死は生 それ故死は死
それ故 一切は絶対の無
それ故 一切はわたし

光の底へ

光をうけて
わたしが
まどろみから目覚める
私の底に永遠なるわたしが
光り輝いている
私は 解き放たれる
わたしが 私をつつむ
私は私となり 孤独から開放され
わたしとなる
わたしが光り輝いている
私は輝き
限りなきわたしとなる
百五十億年の時を超え
百五十億光年の宇宙をわたしは包む
私の内にわたしが
わたしの内に私がいる
わたしは初めであり 終わりである

私が消える
私が薄らぎ
私の境界が溶けていく
私は 透明になり
私の言葉が無くなる
私のすべてが目となる
私のすべてが耳となる
私のすべてが純粹な感覚となる
感動が私 快さが私
宇宙が私
時間が私
空間が私
私はわたし
わたしは私
わたしは輝く
わたしは透明
わたしは絶対の無

風の中に立つ

私の内を風がかけぬけて行く

私は風に溶かされ 風になる

私は透明となり 空中をながれる

ときにすばやく

ときにゆったりと

高く 低く乱舞して

街を流れ 山を越え 海を見下ろす

光とまじわり 静寂の無に溶ける

私はわたしとなり 地球をつつむ

その抱擁は愛 その抱擁は涙

その抱擁は祈り

私は 風の中に立つ

感謝と 喜びと 安らぎと

宇宙の意志がわが内に漲る

私は 風のなかに立っている

なにも見えない
なにも聞こえない
なにも触れない
なにも知ることがない
しかし すべてが見え
すべてが聞こえ 触れ 知る
その姿は聖よく
その音は やすけく
その感触は 深い
すべては無 すべては有
すべては空
ゆえに すべては真実
すべては実在
すべては光り輝いている
永久に変わらなき真の命よ
躍動する栄光の命よ
私のわたしよ

静寂に夜空を仰ぐ

限りなく夜空は胸に広がり

胸が夜空を抱え

夜空が胸となる

百五十億光年の永久なる広がり

私の胸

全ての辰星は胸にまたたく

限りなく私は広がり

透明と化した私は わたしとなる

わたしは初め わたしは終わり

わたしは力 わたしは無障

わたしは希望 わたしは平安

わたしは愛

時間がわたし 空間がわたし

死はわたし 生はわたし

苦しみはわたし 喜悅はわたし

彼処がわたし 此処がわたし

形は心 心は形

見えるものは見えないもの

見えないものは見えるもの

理想は現実 現実理想

肉体は霊 霊は肉体

言葉は沈黙 沈黙は言葉

私は他人 他人は私

過去は未来 未来は過去

今日は明日 明日は今日

男は女 女は男

この世はあの世

あの世はこの世

生は死 死は生

初めは終わり 終わりは初め

現実幻想 幻想が現実

一切はわたし 一切は絶対の無

命のたぎりなるわたしに栄光あれ

天上の礼拝に侍る

聖なるかな 聖なるかな

聖なるかな

昔いまし今いまし

永久にいましたもう全能の主

栄光と誉れと権能はあなた

あなたこそ 創造 保持 完成

覚醒した魂達は その栄光を觀

歡喜の声を聞く

聖なる光が私をつつみ

滾る命が 炸裂する如くに

わが内に湧き起こり

一切の汚れを 焼き尽くす

それは 新しい創造

永久なる命の滾りに私は立つ

今は闇 不安 矛盾 魅惑 しかし

今は明 安心 明快 命滾る歡喜

宇宙意思が凝縮するとき
万物が生まれる
それは愛による創造行為
それは命の輝き
それは命のたぎりの現成
深き沈黙の透明な交響曲
霊が風となり 恵みが雨となり
この世を潤す
万物は命に服し 命を謳歌する
宇宙意思は初めであり終わり
永久なる光り
宇宙意思はわたし 愛の根源
万物の根拠
私の根拠
私は宇宙意思を見る者 聞く者
感じる者 味合う者
私は宇宙意思を生きている

宇宙存在を胸に感じる

静かに息づく胸

それは宇宙存在の命の反映

息づきとともに胸が広がる

吐く息は宇宙存在の中心に達し

吸う息毎に胸は限り無く広がる

私の境界は肉体を越え 私は消える

私はわたしとなり 宇宙存在となる

すべての天体はわが胸に浮かぶ

辰星よ お前は光より生まれ

愛によって結ばれ連なっている

宇宙存在は愛 愛に連なる万物は光

愛が宇宙を抱え 光を発し万物を生む

愛は命 命は光 光は物 全てはわたし

わたしは私 貴方は私 私は貴方

静かに息づく胸 万物を胸に見る

すべてを見

すべてを知り

すべてを感じ

すべてを聞く畏るべき霊

それは獅子のよう 雄牛のよう

人のような顔をもち

鷲のようである

それは 権威 力 智慧 自由

彼に隠すものなく 隠せるものはない

彼のもとでは すべてが そのまま

永遠の昔より 永遠の未来まで

瞬時も途絶えることなく 天主を賛美

する霊 その言はただ一つ 栄光と誉

れと力とを受けるにふさわしい方こそ

天主 創造者 保持者 完成者こそ天主

その賛美は天上に響き、光となって宇

宙をつつむ 光に誘われ わが身を天上

の礼拝に侍らす 時と場とを越え 確か

な平安が満ち溢れる 存在の究極の現場

がここに命たぎっている

わたしは そこにいる

音がしみこむ 音にしみこむ

私は音 音は私

すべては 静寂

風がしみこむ 風にしみこむ

私は風 風は私

すべては 虚空

光りがしみこむ 光にしみこむ

私は光 光は私

すべては 白光

水がしみこむ 水にしみこむ

私は水 水は私

すべては 清流

樹がしみこむ 樹にしみこむ

私は樹 樹は私

すべては なり 闇となる

大地と一つとなり 大地となる

肉体の境界が
瞑想のなかで消えてゆく
私は宇宙に溶け込み わたしとなる
私の息づかいは 宇宙の息づかい
私の意志は 宇宙意志
私は限りなき始め 限りなき終わり
私の情念は 宇宙の情念 究極の爆発
究極の静寂 それは永久の命のたぎり
私は わたし。
わたしに境界が生じ 私が現成れる
限りなき命が 限りある肉体に同化し
わたしを謳歌する
私は霊 私は魂 私は肉体
限りなき命がそこに輝き 生の秘密を
私に教える
眼を開け 耳を澄ませ 舌と鼻とを働
かせ 心を清めよ
そのとき 生の秘密の驚愕すべき歓喜
の世界を見る

命が意志なるとき

意志は万動と化して その姿を表す

命が情念なるとき

情念は万色と化して その容を現す

命が知性なるとき

知性は万の道理となつて その理を表す

命が肉体なるとき

肉体は万の像と化してその状を現す

意志は 躍動する創造力

情念は 乱調の美

知性は 根源的な調和

肉体は 一時の有り難き幻想

命は霊 霊は風と化し

水と化し 土と化し 光りと化す

霊は万物を創造し 保持し 完成する

霊は ありてあるもの

絶対無相のわたし 私はわたし